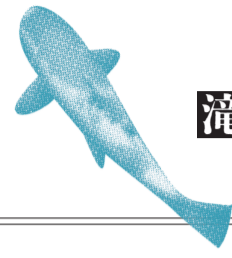


sento & neighborhood journal

TAKINOGAWA INARIYU

せんととうまち新聞



北区の記憶あつめ編 Vol.1

滝野川稲荷湯

ABOUT

この事業は「北区政策提案協働事業」として、一般社団法人せんととうまちが北区と協働し、令和5年度から3カ年計画で、北区の現役銭湯全23軒(令和5年現在)をめぐる。銭湯と周辺のまちの歴史や物語を聞き取り、広く共有することで、多世代間の交流を促し、地域のコミュニティ再生へつなげることを目指しています。

CONTENTS 滝野川稲荷湯紹介/記憶地図/住民かく語りき



この「風情」の中核をなしているのが滝野川稲荷湯だ。5代目女将の土本公子さんによると、この銭湯の創業は1913年(大正2年)、現在の堂々たる宮造りの建物は1930年(昭和5年)に建てられたものだ。その外観もさることながら内観にも往時の雰囲気は健在、浴室に描かれた富士山のペンキ絵はもろろん、年季の入った番台や高い格天井など至るところに風情がある。もちろん、おもてなしも往時に引けをとらない。公子さんは両親と祖父から学んだ「風呂屋は、清潔が一番」という教えを胸に、家族とともに日中は番台から常連客を見守り、営業後は深夜まで掃除に励むという日々を送り続けている。実際、浴室も脱衣場も隅々まで手入れが行き届



滝野川稲荷湯の入口に面する路地。

東京都北区滝野川、かつて種子屋街道と呼ばれたこの一帯は戦火を免れ、戦後から高度経済成長期にかけて多くの商店や銭湯、そして映画館などが立地していた。宅地開発が進んだ今日、ほとんどの商店や娯楽施設はなくなってしまったが、所々に残された木造建築物、そして入り組んだ細い路地からは今なお当時の面影が感じられる。

移り変わる街の中で変わらぬ風情を残す稲荷湯

現代に蘇った“湯屋コミュニティ”が地域に活力ををもたらす

いおり快適そのもの、正月になると新調される木桶にも心意気があらわれている。ちなみに、風呂に使われているのは地下137mから汲み上げた地下水で、どことなくやわらかさを感じられる。湯船は熱め、普通、ぬるま湯の3種が用意されており、老若男女を問わず、誰もが心ゆくまで湯船に浸かれるようになっている。

歴史的・文化的価値の評価

こうした不断の努力のいかいもあって、滝野川稲荷湯は知る人ぞ知る銭湯となり、映画『テルマエ・ロマエ』のほか、数々の映像作品のロケ地にも使われてきた。また、その歴史的・文化的価値は公的にも高く評価されており、一般社団法人せんととうまちによる調査活動を経て、2019年12月には東京都内の銭湯としては2軒目の登録有形文化財に認定。稲荷湯に隣接し、かつて従業員が住んでいたという築100年を超える二軒長屋も同じく認定された。さらに、世界中の修復・保存活動が求められる文化遺産への支援を行っている「ワールド・モノユメント財団」のウォッチリスト2020にも選定される。アメリカン・エキスプレスの協力を得た財団の支援の下、銭湯の耐震化や外構・二軒長屋の修復と耐震補強、再生工事が行われた。



有志たちが集い土壁再生を行った。

銭湯の持つコミュニティの場としての役割が外に拡張され、銭湯に馴染みのない人も立ち寄りやすい空間が生まれた。イベントへの参加を機に稲荷湯さらには銭湯の魅力に気付く常連客になった人たちが多く、中には自ら持ち込みの企画をする人たちがあちこちで見られる。銭湯と長屋の連携が、新たな可能性を切り拓き始めている。



お披露目の様子。地元の人々が長屋に集まり賑わいを見せた。

地域を巻き込み新たな可能性を切り拓く



まちの湯上り処「稲荷湯長屋」金/土/日16:00-20:00 (SNSと稲荷湯の掲示板にて営業情報を公開)

せんととう情報 SENTO DATA

滝野川稲荷湯



滝野川稲荷湯 東京都北区滝野川6丁目27-14 JR埼京線「板橋駅」、都営三田線「西巢鴨駅」徒歩6分 15:00~翌24:30 定休日:毎週水曜日 月1回連休あり

番台 薬湯 あつ湯の浴槽 ぬる湯の浴槽(41度以下) ペンキ絵 ランドリー 駐車場(無料)

※「記憶地図」は、一部ご近所の皆さまの記憶や思い出を元に作成しています。事実と異なる表記があるかもしれませんが、ご了承ください。

記憶地図

滝野川稲荷湯編

ワークショップや近隣住民の方へのインタビューを通して見えてきたまちの記憶地図。かつての銭湯界隈のあたたかいまちの風景を想像しながら、湯上りに歩いてみましょう!

● 現在も営業中 ● 閉店

まち並み

八百屋、米屋、豆腐屋、時計屋、電気屋、海苔屋、材木店…生活に必要なものは何でも揃っていたそう。1923年(大正12年)の関東大震災以降、下町の人たちが滝野川に大移動し人が増えたという。



提供:伊藤隆文

弁天座

映画館は弁天座と万歳館の2館があり、その界隈はネオンが多く昼夜問わず賑わっていたとの話。



種屋街道

旧中山道の巣鴨から滝野川三軒家までが「種子屋街道」と呼ばれている。滝野川ゴボウ、滝野川ニンジンなども有名で、種苗問屋や販売店が軒を連ねていたそう。



提供:松本アヤ子

虎月

1924年(大正13年)創業。1969年頃までは都電の停留所のすぐ近くにあったそう。夜遅くまで人が行き交い、クリスマスの時期は6畳の部屋に入りきらないほどケーキを作っていたのだとか。



中三軒

滝野川稲荷湯



みやま

55年もの間、稲荷湯に通っていたみやまのご夫妻。あんみつは女優の中山美穂さんも大好物だったとのこと。



万歳館→喫茶ローリー

レイトショーがある日には、朝5時半くらいに観客がぞろぞろと劇場を後にしていたそう。ちなみに稲荷湯長屋はかつてここにあったものを現在地に移築。



提供:松本忠

龜の子東子西尾商店

滝野川稲荷湯

先々代の旦那さんの「いらっしやいませー」という声に向こう5、6軒先までよく通りトレードマークならぬトレードボイスだったとか。写真は三助姿の先代の旦那さんを囲んだ一枚。



提供:土本公子

梯子のりの話

十区4番組というのが近くにあり、正月には若い人が各店を回って梯子に上りご祝儀集めをしていたとのこと。砂糖問屋さんはご祝儀も弾んでいてよく梯子のりが来ていたんだとか。



住民かく語りき

滝野川稲荷湯周辺

わたしのせんととうとまち

北区の記憶あつめVol.1 滝野川稲荷湯

5月25日、記憶集めトークイベントが実施された。これは滝野川稲荷湯周辺のかつての写真や地図を見ながら地域の記憶を掘り起こしていくというものだ。ご近所の方々にご参加頂き、思い出に語り合ってもらった。

まず話題が上がったのは戦後から高度経済成長期にかけての賑わいぶりだ。近隣の滝野川銀座は江戸時代から種子屋街道として栄えてきただけに「当時はまだ種子屋がたくさんあった」「種子屋のショーウィンドウに何らかの賞を獲った大根のホルマリン漬けが展示されていた」と参加者。また「八百屋や豆腐屋、米屋、時計屋などが各町会に2、3軒あった」という中にも、「子どもの頃にはおつかいで、鍋を持って豆腐を買いに行ったりしていた」という参加者も。さらに、当時は腕の立つ蕎麦や大工、左官職人がたくさんいて、「誰に普請を頼むかで揉めることもあった」とか。一方で、娯楽施設も充実していたようで「映画館などのネオンサインが多かった」「映画館が2つあり、よくレイトショーを観に行っていた」といった声も寄せられた。

では、当時の稲荷湯近隣がどうだったかという点、すぐ近くに「フランクス屋敷」と呼ばれる風変わりな建物があり、その隣には納豆屋が。しかも、その納豆屋の女将さんが発する「なっどー、なっどー」という呼び込みがちよっとした名物になっていたそう。声といえば、稲荷湯も負けてはいない。先々代の旦那さんの「いらっしやいませー」という声は通りが良く、5、6軒先まで聞こえていたし、地域の宴会ではモノマネのネタになるほど親しまれていたという。ちなみに、当時の稲荷湯には利用客の背中を流す三助のほか、赤ん坊の面倒をみる女中もいたそう。その様子に思いを馳せる参加者もいた。はたして、次の銭湯ではどんな記憶が集まるか、今から楽しみでならない。

COMMENT

滝野川稲荷湯の歴史は初代・土本仁之助と2代目・伊三郎が故郷の石川県羽咋郡志賀町で大火に見舞われ、生活のために東京で銭湯を営む弟を頼って上京したことからは始まりました。そして駒込の亀の湯はじめていつかの銭湯を経て、1913年(大正2年)には滝野川の草津湯を借りて営業を始め、1918年(大正7年)にはこの草津湯を買って独立。隣に稲荷湯があったため、いつの頃から稲荷湯と呼ばれるようになったそうです。

ちなみに、うちの親族たちはかつて「にっこり会」というグループを作り、月に1回の食事会を行い、皆が銭湯のオーナーになれるよう、そしてその経営が順調にいくように協力して合っていました。おかげで、滝野川稲荷湯を本家とし、多いときには蓮根の蓮根浴場、志村の稲荷湯、石川台の稲荷湯のほか、豪徳寺や日吉、鐘ヶ淵、雲台、小岩にも親族たちが銭湯を構えるまでに。現存しているのはうちと5湯くらいで、にっこり会の活動もなくなってしまうましたが、私も幼心に往時の集まりがとても賑やかで、旅行などにもよく出かけたことを覚えています。

稲荷湯に遊びに来たね!



Photo / Mari Okamoto



発行: 一般社団法人 せんととうとまち

代表理事: 栗生はるか 理事: サム・ホルデン / 三文字昌也 / 江口晋太郎 / 牧野徹 メンバー: 福井彩香 / 渡邊勢士
編集・執筆: 熊本鷹一 グラフィック: 株式会社PIN DESIGN 菅原悠介 / 岡本茉莉 協力: 東京都北区浴場組合 / 森田真央 / 大正大学さがもプロジェクト銭湯コミュニティ班
北区政策提案協働事業「銭湯を核とした多世代間の地域コミュニティ再生と記憶アーカイブによる歴史的・文化的まちづくり」(担当: 北区政策経営部シティプロモーション推進担当課)にて制作。
一般社団法人せんととうとまちは、銭湯とその周辺のまちを共に考え、関係性を編み直しながら、銭湯をめぐる生活文化を再生・活性化していくことを目指しています。

活動支援の協賛・寄付を募集しています
https://bio.site/sentotomachi

